

平成27年度 大形中学校における 学習の評価・評定について(お知らせ)

大形中学校は、学習目標に対する生徒の達成状況を年数回評価し、それを総合して5段階評定を行い、ご家庭に通知表という形でお知らせしております。今年度は、昨年度までと比べて評定の出し方について、若干の変更をすることとなりましたので、保護者の皆様にあらかじめ本校の学習評価や評定についてお知らせいたします。

【通知表の配付について】 昨年度と同じく4回の配付となります！

教育第Ⅰ期末（7月）、前期末（10月）

教育第Ⅱ期末（12月）

教育第Ⅲ期末（3月）

計 年4回



※6教科（国語，社会，数学，理科，英語，保健体育）の評定は，教育期末（7月，12月，3月）の3回，3教科（美術，音楽，技術・家庭）の評定や総合的な学習の評価は，週時数等の関係から従来どおり前後期末（10月，3月）2回のお知らせとなります。

【観点別評価とは】 各教科4～5の観点を設定し，多面的多角的に学習状況を評価します！

学習状況を適切に評価するには，何を評価するのかという観点が必要になります。それを評価の観点といいます。各教科の観点は，学習指導要領に示されている4観点（国語は5観点）が観点別評価として通知表に記述されます。（例：理科「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」）また，各観点の到達状況は次の3段階で評価します。

表1

観 点 別 評 価		達 成 率（※）
A	十分に満足できると判断されるもの	80%以上
B	概ね満足できると判断されるもの	80%未満～40%以上
C	努力を要すると判断されるもの	40%未満

（※注）テストの難易度や学習内容などにより，±10%程度の調整が入る場合があります。

各観点の評価を決める資料としては，日々の学習活動の様子（準備，発言，授業態度など）や取組の成果（提出物，作品の完成度など），達成状況を確認する諸テスト（小テスト，単元テスト，定期テストなど）などがあります。

【評定とは】 各観点別評価は総括され，学力の到達状況を5段階で表します！

総合的にどの程度学習目標に到達しているか，各観点別評価を総括したものが「評定」となります。総括するとは，観点別に数値化した学習の到達状況を総合し，表2に基づいて5段階化することです。従いまして5段階評定は，定期テストの結果がそのまま評定として反映されるわけではありません。

表2

評 定		達 成 率（※）
5	十分満足できるもののうち，高い程度のもの	90%以上
4	十分満足できる	90%未満～75%以上
3	おおむね満足できる	75%未満～45%以上
2	努力を要すると判断されるもの	45%未満～20%以上
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

（※注）実態に合わせて±5%程度の調整が入る場合があります。

【観点別評価と評定の関係】 今年度より、評定は観点別評価の達成率から総括します！

各観点別評価をもとに評定を算出する方法には、大きく分けて2つの場合があります。

- ① 各観点の評価の**組み合わせ（パターン）**から評定を算出する場合
- ② 各観点の評価の**達成率（％）**から評定を算出する場合

当校では今年度より**②を採用**します。

観点別評価		各観点の 評価を総括	評 定	
A	十分満足できると判断されるもの		十分満足できるもののうち、高い程度のもの	5
B	おおむね満足できると判断されるもの	十分満足できる	4	
		おおむね満足できる	3	
C	努力を要すると判断されるもの	努力を要すると判断されるもの	2	
		一層努力を要すると判断されるもの	1	

<参考資料>

観点別評価から評定の出し方（例）



	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
点数合計	102 / 120 点満点	221 点 / 300 点満点	218 点 / 280 点満点	169 点 / 200 点満点
達成率	85.0%	73.7%	77.9%	84.5%
観点別評価	A	B	B	A
総括方法	$85.0 + 73.7 + 77.9 + 84.5 = 321.1$ $321.1 \div 4 = 80.3$ ※各観点の点数を総合計し、満点の総合計に対する割合を求める方法でも結果は同じ。			
評 定	4			

【注意】 観点別評価（A, B, C）に大きな幅があることから、次のような場合があります。

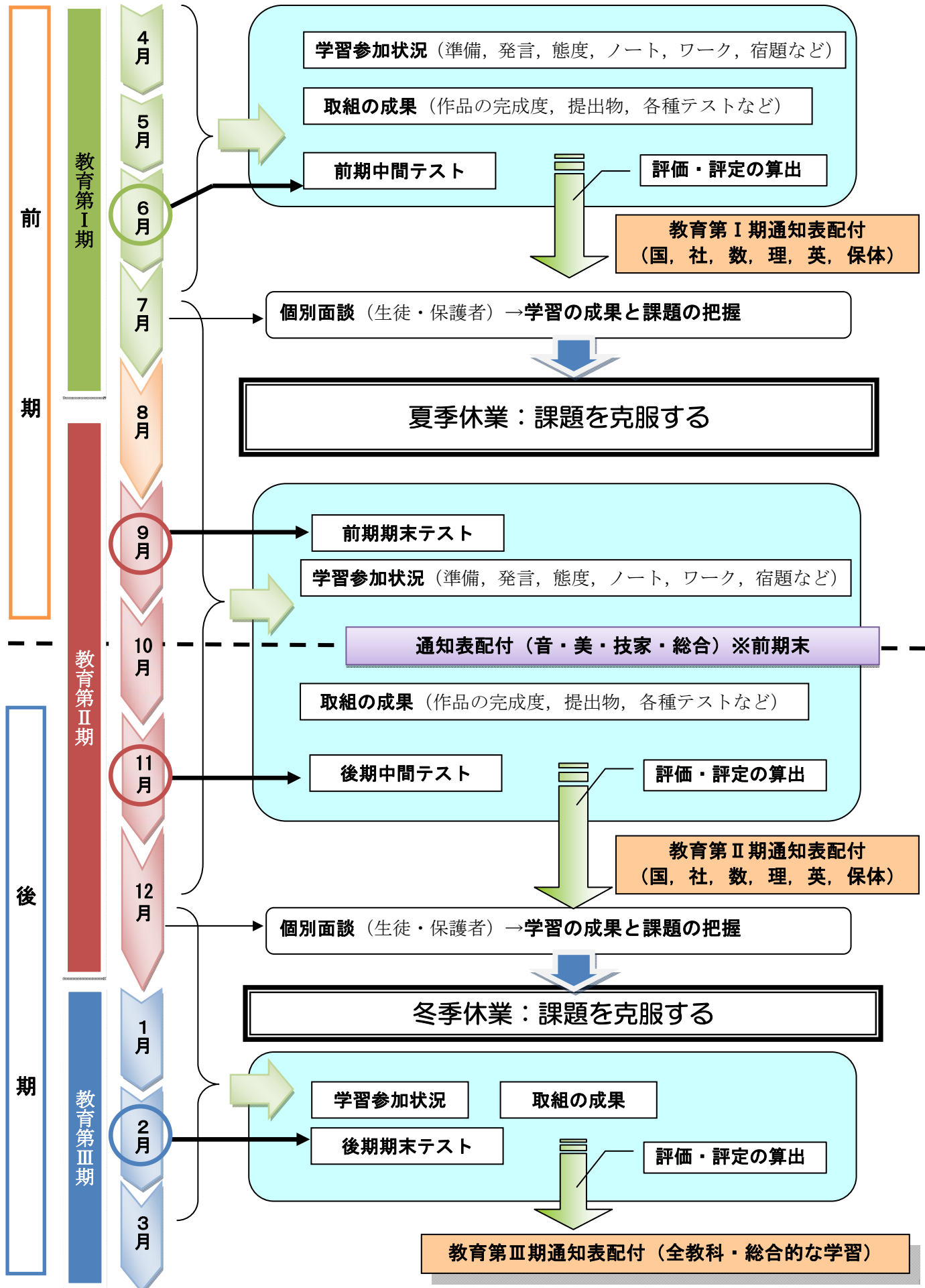
- ① 同じ観点のパターン（A, B, Cの数）でも評定が必ずしも一致しない場合
- ② 評定の逆転が起こる場合

達成率%	関 心	思 考	技 能	知 識	平均達成率	評定
100	○	○	○	○	○	5
90	◎	◎	◎	◎	◎	
80	●	●	●	●	●	4
70	○					3

（例）◎ = A A A A で評定 5 ● = A A A A で評定 4 ○ = B A A A で評定 5

当校では、このような方法で、評価・評定を行っています。評価の資料や表1・表2の基準については、学校として、各教科等において十分留意して、適切に設定していきます。

【評価・評定算出までの流れ】 長期休業前に評定を出します！



Q&Aコーナー

Q1:なぜ通知表を年4回配布しているのですか？

当校は二学期制をとっています。通常二学期制の学校は、前期末（10月）・後期末（3月）に配布しますが、当校では、年4回の配布としています。これは、長期休業前に個別の学習状況（評価・評定）を示すことで、一人一人が自分の取組を振り返り、目的意識と見通しをもって休業へ向かうこと、休業期間中に課題を克服することで、自信をもって次の教育期へ向かってくれることをねらっています。短期スパンによる「めあて→実践→振り返り→改善」のサイクルで、生徒が自主的主体的に学習へ取り組むことを期待しています。

Q2:これまでの「観点別評価」→「5段階評価」からどのように変わったのですか？また、利点は何ですか？

これまで採用していた観点別評価（**A**、**B**、**C**）の数から評定を決める「組み合わせ（パターン）方式」は、どの教科でも観点別評価（**A**、**B**、**C**）と評定（**5・4・3・2・1**）の関係が明確で、どの観点に課題があるのかが分かりやすいのが利点でした。

反面、観点別評価の基準幅が広いために、**ABC**の数が同じであっても、実際の生徒の姿と評定が一致せず、調整が必要となる場合が出てきていました。また、学習内容による観点の重み付けが必要な場合は、さらに同様のケースが多くなります。

そこで、各観点の**ABC**の数からではなく、各観点の達成率を総括し、5段階評定を算出する「達成率（％）方式」へ移行することにしました。

この利点は、生徒の姿と評定をより一致させた評価ができるという点にあります。もちろん、ある観点について特別な重み付けをして、評定結果に説明が必要な場合には、個人面談等を通じて説明するなど対応していきます。

Q3:病気等で定期テストが受けられなかった場合、評価・評定はどうなりますか？

後日、登校できたときに公正を保ってテストを受けさせます。公平性を保つため、経過した時期により評価は変わりますが、本人に不利益にならないよう、可能な限り評価の材料として活かしていきます。実力を十分発揮できるよう、日ごろから体調管理に気をつけてください。

最後に

生徒や保護者の皆様にとって評価・評定は大変関心が高いものです。私たちは、よりわかりやすく適正な方法について、毎年検討を重ねております。この度の改訂はその一つの形ではありますが、課題がないわけではありません。お子様の今後の学習や生活を改善するよりよい資料の1つとなるよう、今後も検討を継続して改善を図りたいと思います。

不明点・ご質問等ございましたら、個別面談の折に遠慮なくお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。

平成27年7月

